

わたしのまちのPR

和泉市編



和泉市は、大阪府の南部に位置し、大阪都心から約25km、関西国際空港から約20kmの距離にあります。市域は、平地部、丘陵部、山地部という構成になっており、奈良時代に和泉国の国府が置かれるなど、泉州地域の政治・経済・文化の中心的役割を担ってきました。

江戸時代の“和泉木綿”以来の伝統をもつ繊維産業をはじめ人造真珠、ガラス細工、花き栽培などが盛んで、南部の山間部は丘陵地帯を利用した温州みかんの栽培で知られています。この和泉市の魅力や特色について、企画経営課長の辻林さんにお話をお伺いしてきました。



本日はどうぞよろしくお願ひします。

まずは、和泉市の特色について教えていただけますか。

よろしくお願ひします。

和泉市は、遠くは弥生時代より開け、遺跡などの文化財が数多く残されている歴史のまちです。

そのいくつかを紹介させていただきます。

まず、**池上曾根遺跡**ですが、これは弥生時代中期に繁栄した環濠集落です。広さは約60万m²といわれています。この中心部で東西約20m・南北約7mの弥生時代最大級規模といわれる巨大な建物跡と、クスノキの木をくり抜いた井戸が発掘されました。池上曾根史跡公園では、これらを復元し、2千年前の大集落を再現し、公開しています。

次に**施福寺**は、標高491mの槇尾山頂にある修験道の寺院で、高僧行基や弘法大師もここで修行したといわれています。同寺は西国三十三ヶ所の第四番札

所となっており、弥勒菩薩と札所本尊の千手観音をまつているほか、**槇尾山大縁起**という国の重要文化財を所有しています。

また参道は桜、紅葉等が美しく、山頂からの景観もすばらしい市内屈指の観光名所です。

最後に**光明池**ですが、昭和初期に完成し、本市の他、堺市、泉大津市、高石市の水田を広域的に灌漑する関西屈指の貯水量を誇る人工池で、池の周囲には自然が残り、バードウォッチングの格好のポイントとなっています。また、光明池緑地は「大阪みどりの百選」に選ばれており、周辺にはテニスコートをはじめ各種スポーツ施設も整備されるなど、ウォーキングやサイクリングなど、四季を通じて憩いの場として親しまれています。

池上曾根史跡公園



施福寺



光明池

なるほど、情緒豊かな風景が想像できます。
次に、和泉市の特産品について教えていただけますか。

本市には、人造真珠、ガラス工芸品、綿製品や農産物といった特産品があります。

まず、人造真珠についてですが、本市には全国の人造真珠業の約8割の業者が集中しており、人造真珠における全国シェアが飛び抜けて多く、市としても古くから支援を行っています。また、本市の人造真珠はアイパールという愛称で世界的にも高い評価を受けています。

人造真珠



ガラス工芸品



ガラス工芸品は、本市の重要な地場産業となっており、軟質ガラスを用いて手加工で動物や船、馬車などの置物類が作られています。現代では稀少価値が高く、お部屋のアクセサリや趣味の生活用品として、愛好家から高い支持を得ています。中でも、和泉蜻蛉玉といわれる伝統工芸品は非常に人気があります。

次に綿製品についてですが、本市をはじめとする泉州地方は古くからの綿スフ織物産地で、日本の四大産地の一角を担っています。木綿が日本人の衣生活に浸透した江戸時代より和泉木綿の名で知られ、日本の中心的な綿業地帯を形成しました。現代は衣料用織物をはじめ寝装用、産業資材用、衛生材料用織物のほか、小巾の白木綿など広範囲にわたる多岐多様の品種が製織され、海外市場への輸出や国内需要に対する素材供給基地として大きく躍進しています。

農産物ではみかん栽培が盛んです。本市の南部の丘陵地帯で栽培され、府内最大の産地となっていま

す。近年では高品質のみかんを生産するためマルチ栽培を導入し、消費者ニーズに応じた甘さ、酸っぱさのバランスのいいみかん栽培を行っています。

この他にも、本市には山林が多く、古くから林業が盛んで、スギ・ヒノキの優良材を生産しています。

特産品が豊富ですね。

そういえば、小学生が企画した商品を地場産業のガラス工芸品を活用し、製作したと聞きましたか。

そうですね。これは、本市の小学校がキャリア教育の一環として実施したもので、実際に子どもたちが商品企画を行ったタオルや携帯ストラップを商品化しました。

商品は、子どもたちが市場調査や価格調査を行い、地元の伝説や名所をモチーフにデザインを行いました。

この事業の面白いところは、株式会社の形態を真似て、教師や保護者から1株500円で出資してもらい、製作費を調達したことです。そして、先程のお話のとおり、地元の繊維工場やガラス細工の製作所の協力を得て製作しました。

商品化企画の体験授業



地場産業を活かした面白い取組ですね。その他に地元住民との協働などの取組はございますか。

本市の「和泉市安全なまちづくり推進協議会」が市の商店連合会とタイアップして、地域ごとの防犯情報や、学校情報などを関係者にメール配信するシステム（C I S S）を始めました。

これまで、同協議会が運営する市民自主防犯組織「和泉総合防犯センター」（通称：I C P C）が不審

者情報やひったくりの発生などをあらかじめ登録した人に一方的に送信する活動を行ってきました。

今回の取組は、このシステムを活用する形で、市立の小中学校に通学している児童・生徒の保護者や学校関係者が加入でき、学校、学年、教師、PTA役員など細かい単位で情報が配信できるようになりました。

商店会側は、このシステムでセールなどの情報を配信するほか、その広告費をシステム運営費の一部に充てることとしています。また、下校時には、子どもたちの様子に気を配るとともに、何かあったときは店に駆け込むよう指導していただきます。

商店会のキャンペーン



地元商店会との連携によるまちづくりの様子が伺えます。

他に、和泉市の特徴的な取組はございますか。

本市では、平成16年の職業安定法の改正に伴い、全国の市町村ではじめて就職困難者を中心に職業紹介・斡旋を行う和泉市無料職業紹介センターを市役所内に開設し、国（ハローワーク）で行っていた無料職業紹介・あっ旋業務などの一部が行えるようになりました。

これにより、本市の南部エリアに展開している産業団地「テクノステージ和泉」内企業の人材確保を

和泉市無料職業紹介センター



サポートすることで、産業団地展開事業所の発展を図り、和泉市内産業の活性化を図っています。

また、市民の「働きたい」気持ちをしっかりと受け止め、特に就労困難者（若年者含む）の就職を支援し、活気ある和泉市を目指し施策を実施しております。

さらに、今年から求人・求職情報提供サービスeワーク和泉（和泉市しごと情報）を開始しました。これは、パソコンや携帯電話からインターネットを利用して、常に最新の求人・求職情報を取得できるもので、メールアドレスを登録すれば、新着求職情報をメールで受け取ることができるように工夫しています。

また、本市では、慢性的な交通渋滞の緩和、交通事故の削減、公共交通利用の活性化、さらには、地球温暖化問題への対応など、自動車交通を取り巻く諸問題を改善する為、関係機関が協力して公共交通利用活性化プロジェクト（通称：「かしこいクルマの使い方を考えるプロジェクト」）を実施しています。この度、本市の積極的な取組が認められ、国の「CO2削減アクションプログラム」に基づく、重点地区として選定されました。また、昨年12月には、「国土交通省環境行動計画モデル事業」の実施地区（全国で12カ所）の一つとしても選ばれています。本市の未来を担う、子どもたちに、美しい環境を残せるよう、現在、市民の皆様にご協力をお願いしているところです。

さらに、平成15年には和泉商工会議所と共同で、経営や技術的課題に直面する地元のものづくり産業の支援体制を強化する観点から、多様なニーズに対応する総合相談窓口として、専門のコーディネーターを配置し、市内製造業の技術革新、高度化に対し

ものづくりサポートセンター



て効率的な支援を行うため、大学や企業への橋渡しをはじめ、公的支援機関の紹介及び公的支援制度の導入の助言や活用促進など、ものづくりを積極的にサポートする「ものづくりサポートセンター」を設置しました。

なるほど、様々な取組が行われているんですね。次に、和泉市の風物詩について教えていただけますか。

本市の風物詩としては、秋のだんじり祭りと、和泉弥生ロマン・ツーデーウオークというイベントが10月に行われます。

だんじり祭では、各地区の地車が市内を練り歩きます。特にJR和泉府中駅周辺には18町が集結し、各町自慢の地車を披露、激走する「和泉大連合」という連合曳きが行われます。町の中は狭い道が多く、激走するやりまわしは、一味ちがう迫力があります。毎年盛大に行われ、ギャラリーも非常に多いです。ぜひ、一度見に来てください。

和泉弥生ロマン・ツーデーウオークは、毎年秋に弥生時代の集落地や和泉市内の公園などを楽しく元気に歩くイベントで、今年で9回目を迎えます。日本ウォーキング協会の「オール・ジャパン・ウォーキングカップ」の府内で唯一の公式大会に選ばれており、運営に加わる地元商店街や町内会の人々が参加者を歓迎する魅力あるイベントです。

和泉弥生ロマン・ツーデーウオーク



そういえば、和泉市は昨年市制施行50周年を迎えました。様々なイベントが行われたのではないのでしょうか。

おっしゃるとおりで、昨年和泉市は市制50周年を迎え、さまざまな記念事業が実施されました。これを契機に、市民団体が自ら企画、実施し、市民相互の交流促進等に寄与し、市民利益の増進につながる事業に対して助成を行う「熱中市民サポートプロジェクト」を策定しました。この制度を活用し、市民活動が活発に行われることを期待しています。なお、この取組については、今年度の頑張る地方応援プログラムに応募しています。

また市では、市制施行50周年を記念して、あたらしい市史「和泉市の歴史」編さん事業の一環として和泉市50年のあゆみを刊行しました。

本書は、600枚を超える写真と年表で、和泉市の50年の歩みを振り返ります。本書に収録した、なつかしい写真の数々を通覧すれば、織物と農業のまちとして出発した本市が、次第に住宅都市へと変貌を遂げ、大阪南部の中核都市として発展してきた軌跡が浮かび上がってきます。また、大阪近郊の農村地帯といった風情を強く残していた街並みや市民生活が、急速に近代化・都市化した様子も伺えます。

最後に今後のまちづくりについて教えていただけますか。

本市では、昨年12月に第4次和泉市総合計画を策定し、市の将来像を「人がきらめき 共に育む 元気なまち・和泉」と決めました。

今後は住民自治の確立のため、歴史や文化、環境などの地域資源を大切にしながら、新たなまちの魅力を創出し、市民誰もが信頼しあい、安全・安心に暮らし、誇りと愛着をもって住み続けることのできるまちづくりを進めていきます。

住民自治の確立を目指し、地域資源を活かしたまちづくりに一層の躍進されることを期待しております。

今日は、お忙しい中、ありがとうございました。

和泉市50周年のあゆみ

